



# ViewFramer ユーザーガイド

## Salesforce ver. (PDF/ヘッダー明細)

Ver.1.5

## 改訂履歴

Ver.	改訂日	改訂内容
1.0	2019/07/01	新規作成
1.1	2020/05/15	7.出力アクションの作成について古い内容の修正
1.2	2020/11/10	出力バージョンの違いについて追記
1.3	2021/05/28	Visualforceページでの「nsprefix」の指定について追記
1.4	2021/12/02	3.4 その他のコンポーネント を追加 ラベルの「動的」にチェックを入れる操作について強調するよう編集
1.5	2022/01/07	7.出力アクションの作成について古い内容の修正 「5.1ViewFramer ログイン」の注意点を追記
1.6	2025/09/01	5.2接続アプリケーションのインストールの注意点を追記

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名などは、提供各社の商標、登録商標、商品名です。

なお、本文中に TM マーク、©マークは明記しておりません。

## 本書の使い方

本資料では、簡単な帳票見本を作成する中で、ViewFramer をご利用するにあたって最低限必要な基本操作手順を理解することを目的としています。

各画面のボタンやコンポーネントの詳細などについては製品ヘルプをご参照ください。

## 本書の表記

本書では、以下の表記で記載しています。

表記方法	内容
<b>注意</b>	操作上の注意事項について記載しています。
<b>Point</b>	操作上で知っていると便利なポイントについて記載しています。
<b>参照</b>	本書における参照先を記載しています。
[ ]	ボタン名やタブ名、キーボードのキーなどの表記で使用します。
「 」	システム名、メニュー名、画面名、項目名、参照先などの表記で使用します。

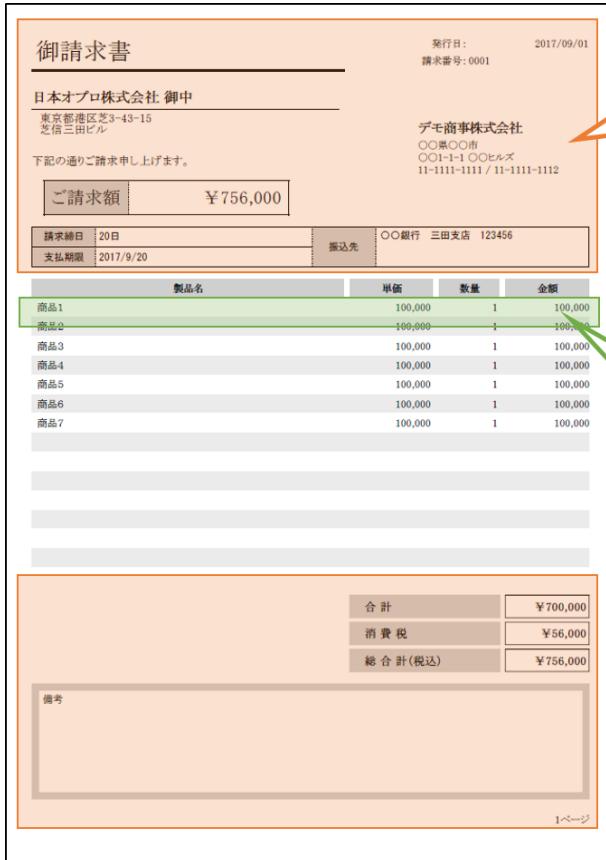
# 目次

1.はじめに	5
2.全体の流れ	6
3.テンプレートのデザイン	7
3.1 テンプレートの新規作成	8
3.2 基本操作の紹介	9
3.3 実際に作る	11
3.4 その他のコンポーネント	14
4.項目のマッピング	16
5.ビュー定義	22
5.1 ViewFramer ログイン	22
5.2 ヘッダービューの定義	23
5.2.1 ビューの作成	23
5.2.2 ビュー定義: 詳細画面 - 基本設定	23
5.2.3 ビュー定義: 詳細画面 - リレーション設定	24
5.2.4 ビュー定義: 詳細画面 - 出力項目設定	25
5.2.5 ビュー定義: 詳細画面 - 出力条件	26
5.3 明細ビューの定義	27
5.3.1 ビュー定義: 詳細画面 - 基本設定	27
5.3.2 ビュー定義: 詳細画面 - リレーション設定	27
5.3.3 ビュー定義: 詳細画面 - 出力項目設定	28
5.3.4 ビュー定義: 詳細画面 - 出力条件	29
6.マッピング定義	30
6.1 マッピングの作成	30
6.2 マッピング管理: 詳細画面	30
6.3 マッピング管理: 出力設定画面	32
7.出力アクションの作成	34
7.1 詳細ページに出力アクションを配置する	34
7.2 リストビューに出力アクションを配置する	42

# 1. はじめに

ここでは ViewFramer で出力する帳票を作成するにあたって重要な「ヘッダー明細型」の概念について説明します。

ヘッダー(またはフッター)と明細のある帳票を 2 つのグループに分けて考えます。ヘッダーやフッターパートを「非明細部」と呼びます。それ以外の部分を「明細部」と呼びます。この非明細部と明細部に分けることのできる帳票を、「ヘッダー明細型」と定義しています。



## ・非明細部

取引先や住所などのように、帳票上に一度しか表示されない項目が集まる領域。  
ヘッダーやフッター

## ・明細部

商品名などといった、帳票によって行数が変わる領域。  
「繰り返し領域」ともいう。

ViewFramer からこのヘッダー明細型帳票を作る場合、主に

非明細部: ヘッダービュー(起点となるオブジェクトから抽出したデータ)

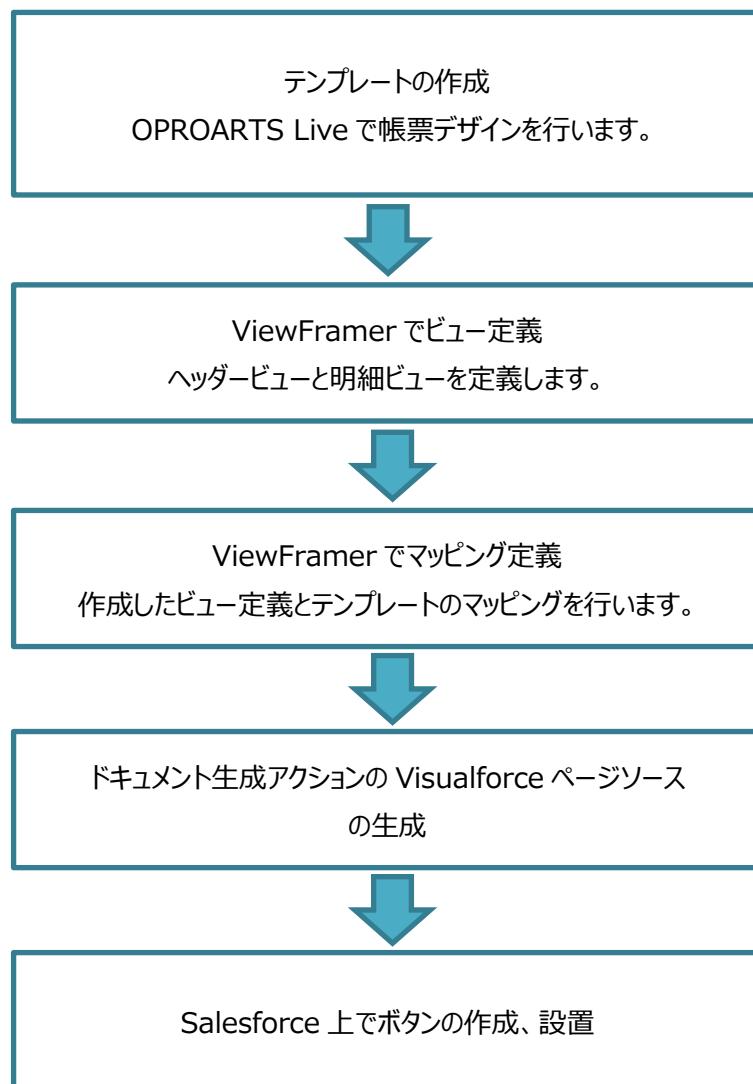
明細部: 明細ビュー(起点となるオブジェクトの子オブジェクトから抽出したデータ)

を用いてそれぞれの部分を埋めることになります。

つまり、非明細部に用いる起点オブジェクトと明細部に用いる子オブジェクトは 1 対 n の関係になります。

## 2. 全体の流れ

ViewFramer では、以下のような流れで帳票出力が可能になります。



### 3. テンプレートのデザイン

出力したい帳票の見た目を OPROARTS Live でデザインします。

本ユーザーガイドでは、以下のような帳票を出力するためのテンプレートを作成します。

サンプル帳票

2019/05/30

Grand Hotels & Resorts Ltd ②

商品名
SLA: Bronze
SLA: Gold
SLA: Platinum
SLA: Silver

これはサンプルテキストです。 ④

Page 1 ⑤

番号	内容
①	帳票出力した日付
②	商談オブジェクトに紐づく取引先名
③	商談オブジェクトの子オブジェクトである商談商品オブジェクトの商品名
④	商談オブジェクトの説明項目
⑤	ページの番号

番号を振っていない部分の文言は固定文言です。

任意の文言を配置、もしくは何も配置しなくても問題ありません。

※本テンプレートは帳票テンプレートの構造を理解するため、敢えて非常にシンプルな構成にしています。

このマニュアルで使用しない各帳票コンポーネントは以下の章で紹介していますので、必要に応じてご参照ください。

### 他のコンポーネント

## 3.1 テンプレートの新規作成

OPROARTS Designer にログインし、左上の[新規作成]をクリックします。



ここでは、[ブランク] タブで A4 縦を選択します。

連携方法「ViewFramer/D3Worker」、出力形式「PDF/OPR」を選択してください。

以下のルールに従って任意のテンプレート名を入力し、[作成] をクリックしてください。

- ・使用できる文字は、英数字とアンダーバー
- ・先頭の文字はアルファベットである
- ・最後の文字がアンダースコアでない
- ・アンダーバーが 2 個以上連続していない

The image shows the 'New Creation' dialog box on the left and the main OPROARTS Designer window on the right. In the dialog box, the title is set to 'Blank', orientation is 'A4 縦', connection method is 'ViewFramer/D3Worker', and output format is 'PDF/OPR'. The 'Template Name' field contains 'sample' and the 'Output Destination' field contains 'My Folder'. A large yellow arrow points from the dialog box to the main window. In the main window, a new template named 'sample' is listed in the tree view under 'My Folder'. A red box highlights the 'Edit' button next to the template name. A callout box with a red border and arrow points to this button with the text: '「マイフォルダ」以下のテンプレートをダブルクリックするか、[編集] をクリックして、デザイン画面を開きます。' (Double-click the template under 'My Folder' or click [Edit] to open the design screen). The 'Create' button at the bottom of the dialog box is also highlighted with a red box.

## 3.2 基本操作の紹介

左上にあるコンポーネントのリストから配置したいコンポーネントを選択してからレイアウト上をクリックすることで選択したコンポーネントを配置できます。



また、画面左側に現れるプロパティを変更することで現在選択されているコンポーネントの詳細を設定できます。



その他に、知つておくと便利な基本のショートカットキーを紹介します。

ショートカットキー	動作
[Ctrl] + [矢印] (↑ ↓ ← →)	コンポーネントを 1px ずつ移動
[Ctrl] + [Shift] + [矢印] (↑ ↓ ← →)	コンポーネントをグリッドの間隔単位で移動
[Shift] + [矢印] (↑ ↓ ← →)	コンポーネントのサイズを変更
[Ctrl] + 選択	コンポーネントを複数選択する(※)
Ctrl+Z	取消
Ctrl+Y	やり直し
Ctrl+X	切り取り
Ctrl+C	コピー
Ctrl+V	貼り付け
Ctrl+A	全て選択(※)
Esc	選択解除
Delete	削除

(※)以下のコンポーネントを組み合わせて、同時に選択することはできません。

- ・他のコンポーネントを内包するコンポーネント
- ・他のコンポーネントに内包されたコンポーネント

### 3.3 実際に作る

ここでは、実際にテンプレートをデザインしながら Live の使い方を学んでいきます。

#### 1. 罫線や枠線を引く

Line コンポーネントや Rectangle コンポーネントを用いて仕切り線を引きます。

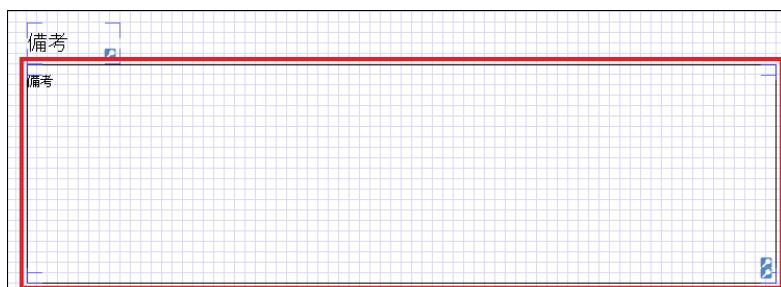


実際にレイアウトに配置するとこのようになります。

罫線



枠線

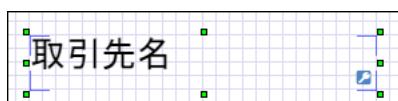


#### 2. ラベルを配置、動的項目にチェック

文字列を表示したい部分には、Label コンポーネントを配置します。



実際にレイアウトに配置するとこのようになります。



ラベルの詳細内容は以下のように設定します。

※ここでは取引先名を表示するラベルを一例として取り上げています。配置したそれぞれのラベルコンポーネントに合わせて設定してください。



The screenshot shows the 'Content' properties panel for a label component. It includes settings for Type (動的), Alignment (Left), Position (Top), Style (Automatic Size, Wrap, Vertical, Shrink to Fit checked), and Line Spacing (0). A vertical scroll bar is visible on the right side of the panel.

- タイプ  
このラベルは取引先名の値を表示するので、「動的」に設定します。  
固定文言の場合、「静的」を指定します。
- アライン  
水平位置、垂直位置ともに、ラベルのどの位置に文字が表示されるのか指定します。
- スタイル  
文字数が多くても全体が表示されるよう、「縮小して全体を表示」にチェックを入れます。
- 行間隔  
行の折り返しはしないので、0 のままにしておきます。

### 3. データセットテーブルを設置

DatasetTable コンポーネントを配置して、明細部分のレイアウトを作成します。



Dataset Table コンポーネントの中に、Band というコンポーネントがあります。



この中に配置されたコンポーネントは、明細オブジェクトレコードの数だけ繰り返し表示されます。

ここでは、商品名の動的項目ラベルと罫線を配置します。

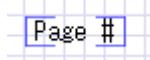


#### 4. ページ番号を挿入

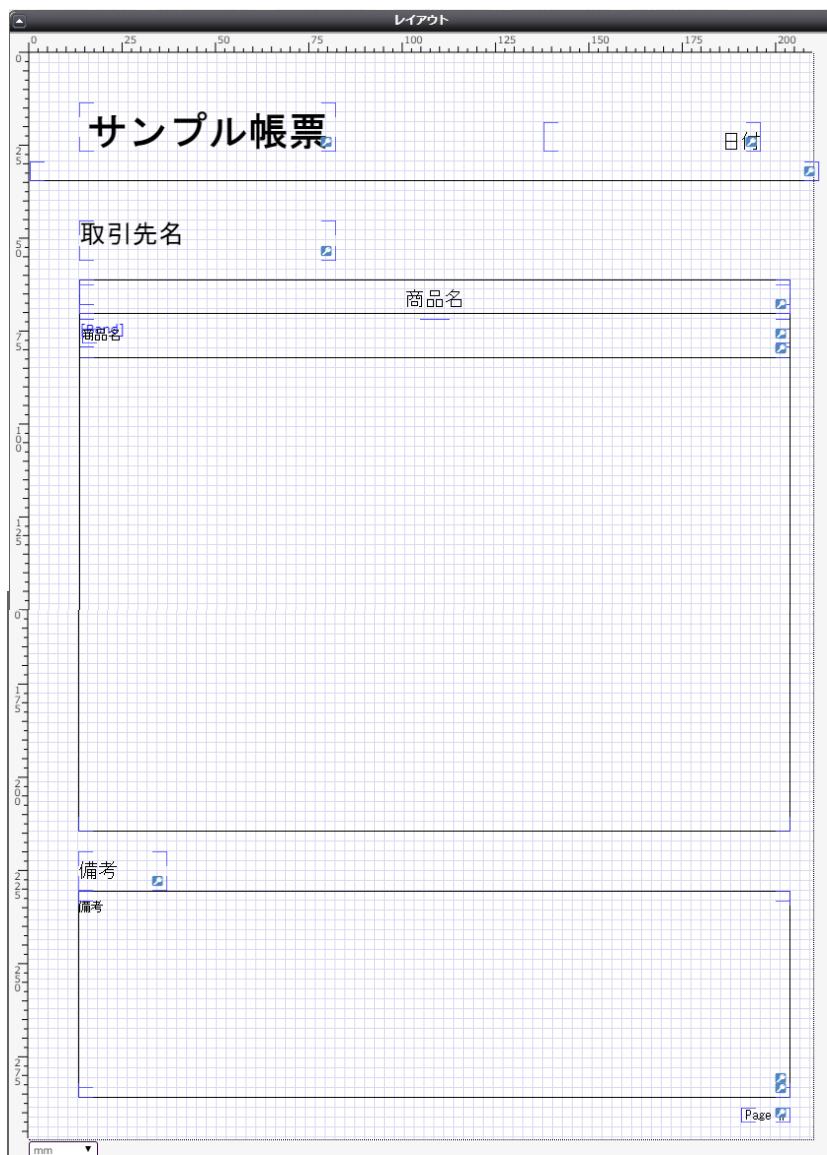
レイアウト右下にページ番号を配置します。



実際にレイアウトに配置するとこのようになります。



完成したレイアウトは以下です。



デザインが出来上がったら、保存ボタン( )をクリックして、矢印ボタン( )でマッピングへ進みます。

## 3.4 その他のコンポーネント

ここでは、3.3までに紹介したコンポーネントを含む全ての使用可能なコンポーネントについてリストアップして説明します。



番号	名称	機能
1	Line	レイアウトにラインを描画します。
2	Rectangle	レイアウトに正方形・長方形を描画します。
3	Circle	レイアウトに円・楕円を描画します。
4	Label	レイアウトにテキストを表示します。 テキストは、静的に指定(コンポーネントに直接記述)するだけでなく、ドキュメント生成時にデータソースの値を動的に適用することもできます。
5	Image	レイアウトに画像を挿入します。 画像は、 ・お使いのブラウザよりアップロードされたもの ・Salesforce 組織に登録されている画像（画像ファイルのレコード ID から取得） ・外部サーバから URL で取得できるものを設定できます。
6	Barcode	レイアウトにバーコード画像を挿入します。 Barcode の元となるデータは、静的に指定(コンポーネントに直接記述)するだけでなく、ドキュメント生成時にデータソースの値を動的に適用することもできます。
7	Page Number	レイアウトにページ番号を表示します。 コンポーネント毎に、ページ番号の採番・表示ルールを設定することができます。
8	Total Page Number	レイアウトに総ページ数を表示します。ただし、OPR 形式での出力のみ有効なコンポーネントです。
9	Dataset Table	データソースのデータとリンクし、バンドを使用してレイアウトにテーブルを作成します。 Dataset Table コンポーネントは、内部に Band コンポーネントを持ちます。
10	Horizontal Dataset Table	データによって明細行が右方向に伸びる点を除き Dataset Table コンポーネントと同じです。
11	Container	内部に複数 DatasetTable を配置可能なコンポーネントです。 Container 内に二つの DatasetTable を配置して出力すると、最初の DatasetTable にテーブルの内

		容すべてを表示した後、二番目の DatasetTable にテーブルの内容を表示します。
--	--	--

#### Dataset Table 内に設定できるコンポーネント

名称	機能
Band	Dataset Table コンポーネントに繰り返し領域（明細行）を描画します。Dataset Table 配置時に内包されています。
Report Header	Dataset Table コンポーネントにレポートヘッダ領域を描画します。レポートヘッダは、繰り返し領域（明細行）の前に 1 度だけ描画されるヘッダです。
Report Footer	Report Footer コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにレポートフッタ領域を描画します。レポートフッタは、繰り返し領域（明細行）の後に 1 度だけ描画されるフッタです。
Column Header	Column Header コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにカラムヘッダを描画します。カラムヘッダは Dataset Table の明細行の直前に描画されるヘッダです。見出しの役割をします。
Group Header	Group Header コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにグループヘッダを描画します。グループヘッダは、Dataset Table のデータを任意項目でグループ化し、その際のヘッダを描画します。
Group Footer	Group Footer コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにグループフッタを描画します。グループフッタは、Dataset Table のデータを任意項目でグループ化し、その際のフッタを描画します。

## 4. 項目のマッピング

デザインしたテンプレートに CSV フィールドをマッピングします。

1. 画面左上の「コンポーネントグループ」内、「ページ」と「DatasetTable1」の両方について、CSV 定義を追加します。



「ページ」にチェックを入れ、[CSV 定義を追加]をクリックします。

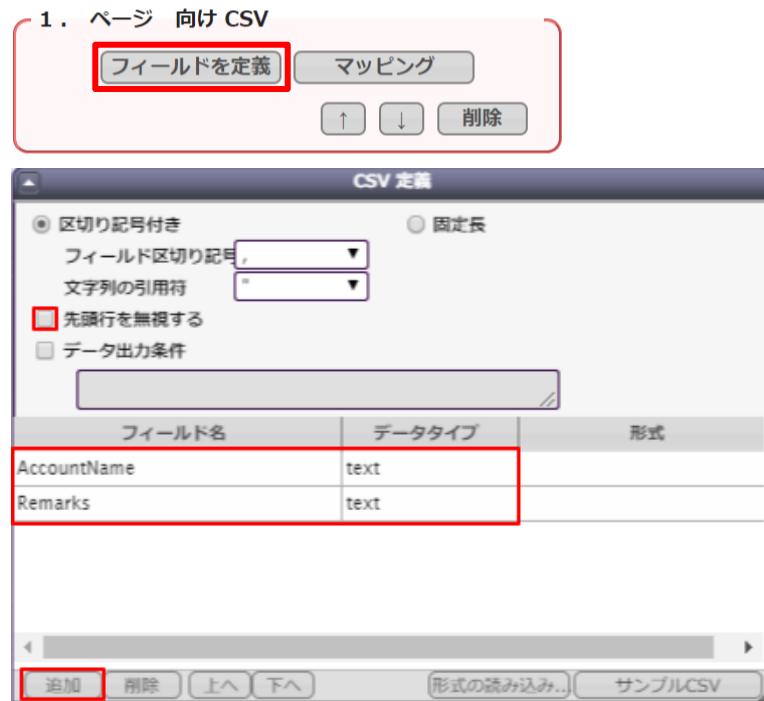


「DatasetTable1」についても同様にします。

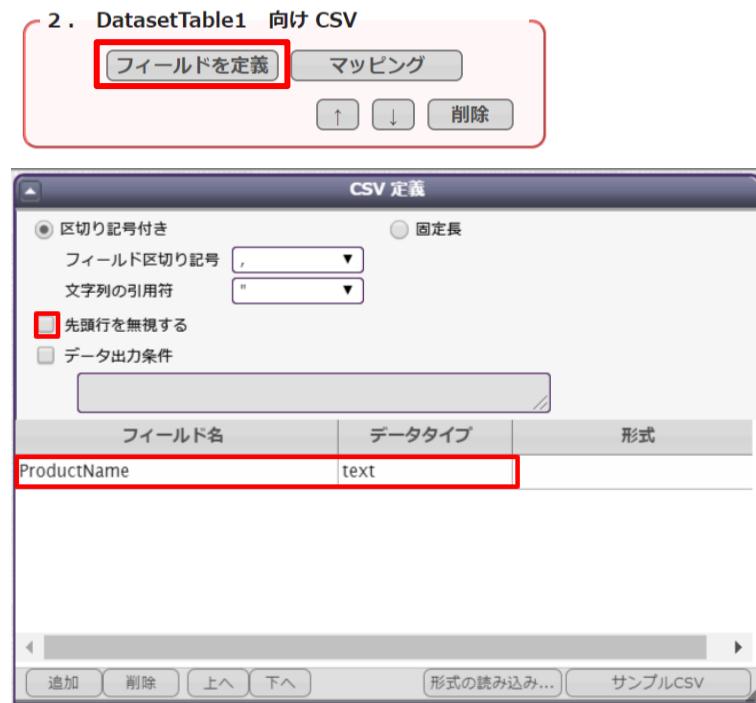


2. それぞれのコンポーネントグループについて、CSV データのフィールドを決定します。  
[フィールドを定義]をクリックし、[追加]ボタンでフィールドを追加します。

ページ



Dataset Table1



※「先頭行を無視する」のチェックを必ず外してください。外さないと、CSV データが正しく連携されません。

3. フィールドを追加したら[マッピング]をクリックし、それぞれのフィールドについてテンプレートのどの動的項目と対応するかを決定します。

設定したいフィールドの行をクリックして、画面左側の「CSV フィールド」から対応させたい項目を「データ」欄にドラッグ & ドロップします。

ページ

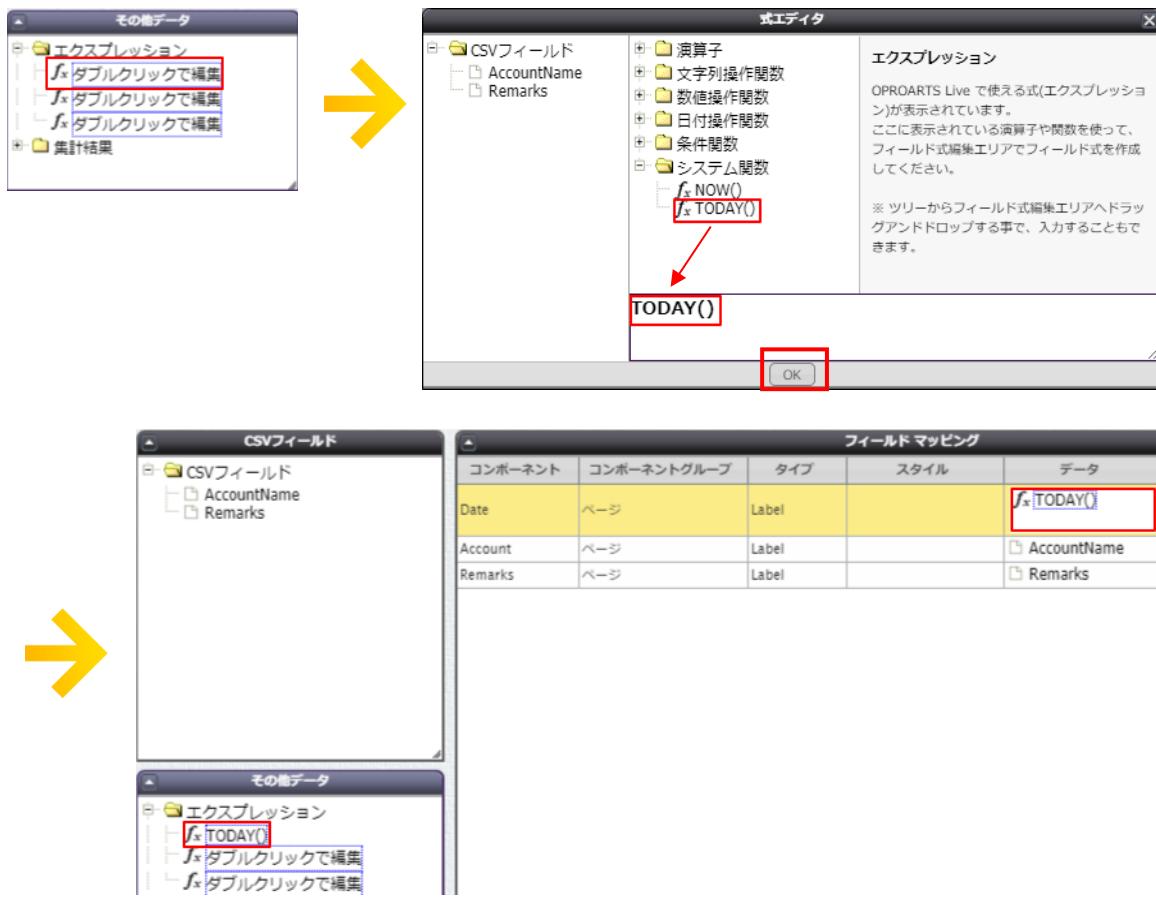
1. ページ 向け CSV

マッピング

↑ ↓ 削除

コンポーネント	コンポーネントグループ	タイプ	スタイル	データ
Date	ページ	Label		<code>f TODAY()</code>
Account	ページ	Label		<input type="checkbox"/> AccountName
Remarks	ページ	Label		<input type="checkbox"/> Remarks

フィールドには組み込みの関数を使用することもできます。ここでは Date 項目にシステム関数の TODAY()を使用しています。



表示の際のフォーマットを指定したい場合は、画面左側の「フォーマット」から好みの項目をフィールド行の「フォーマット」欄にドラッグ & ドロップします。ここでは、日付の表示を「yyyy/MM/dd(年四桁、月二桁、日二桁)」に指定しています。

The screenshot shows the 'CSVフィールド' (CSV Fields) panel on the left with entries for 'CSVフィールド' (AccountName, Remarks). The 'フィールドマッピング' (Field Mapping) table has three rows: 'Date' (Type: Label, Data: TODAY(), Format: yyyy/MM/dd), 'Account' (Type: Label, Data: AccountName), and 'Remarks' (Type: Label, Data: Remarks). A red box highlights the 'yyyy/MM/dd' format entry in the 'Format' column. The 'その他データ' (Other Data) and 'フォーマット' (Format) panels are also visible.

4. 明細部分についても、同様にマッピングします。

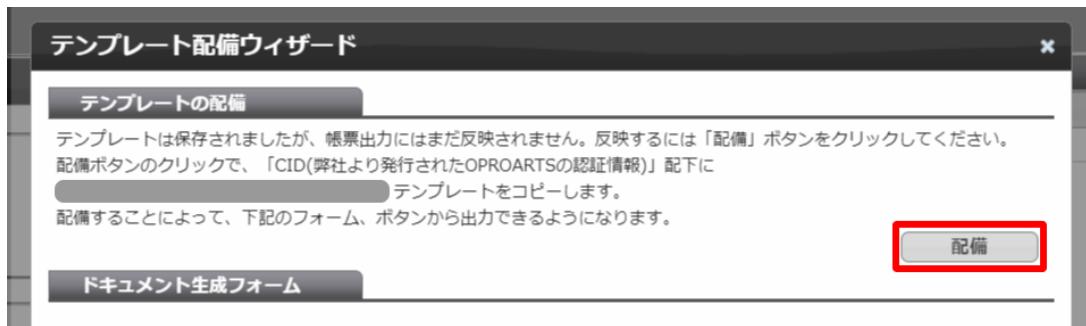
#### Dataset Table1

The screenshot shows the 'DatasetTable1 向け CSV' (DatasetTable1 to CSV) mapping interface. It includes a 'マッピング' (Mapping) button highlighted with a red box. The 'CSVフィールド' (CSV Fields) panel shows 'ProductName'. The 'フィールドマッピング' (Field Mapping) table has one row: 'ProductName' (Type: Label, Data: ProductName). A red box highlights the 'ProductName' entry in the 'Data' column.

5. マッピングが終わったら、[保存]をクリックします。

The screenshot shows the final mapping configuration. It includes two sections: '1. ページ 向け CSV' (Page to CSV) and '2. DatasetTable1 向け CSV' (DatasetTable1 to CSV), both with 'マッピング' (Mapping) buttons highlighted with red boxes. At the bottom is a 'リセット' (Reset) button and a '保存' (Save) button highlighted with a red box.

6. テンプレート配備ウィザードにて[配備]をクリックしてテンプレートを帳票出力に使用できる状態にします。



※テンプレートの編集をした際も、必ず[配備]をクリックしてください。配備をしないと変更点が帳票出力に反映されません。

# 5. ビュー定義

ViewFramer でビューを定義します。

## 5.1 ViewFramer ログイン

最初に、[https://vfui.ap.oproarts.com/view\\_framer\\_ui](https://vfui.ap.oproarts.com/view_framer_ui) にアクセスし、OPROARTS 認証情報を入力して ViewFramer にログインします。



**注意**

同じウェブブラウザーで複数のビューやマッピングを参照・編集すると上書きされてしまいます。  
必ず 1 つのタブで操作してください。  
既存のビューを参考にしたい場合は、別のブラウザーで参考にしたいビューを開くようお願いいたします。  
ただし、同時編集はできませんので参照のみにしてください。  
また、別のブラウザーにした場合も複数のビューを開くことは避けてください。

## 5.2 ヘッダービューの定義

### 5.2.1 ビューの作成

「ビュー」タブを開いて「新規」ボタンをクリックします。



Salesforce にログインします。

(以降「現在のセッション情報を継続する」でもログイン可能です。また、以降のスライドではこの画面を省略しています。)

The screenshot shows the Salesforce login screen. It has a title 'ログイン' (Login) and a dropdown menu '環境' (Environment) set to 'Salesforce'. There's a checkbox 'Sandboxへ接続する' (Connect to Sandbox) and a link '現在のセッション情報を継続する' (Continue session). At the bottom is a large blue 'ログイン' (Login) button, which is highlighted with a red box.

**注意** Salesforceとの初回接続時は、OAuth認証画面が表示されます。  
以下の手順に沿って、**接続アプリケーションのインストールを必ず行ってください。**  
[接続アプリケーションのインストール\(ViewFramer\)](#)  
※接続アプリケーションのインストールを行わないと、ViewFramerを使用できなくなります。

### 5.2.2 ビュー定義: 詳細画面 – 基本設定

基本設定では、ビューの名前とタグ(任意)を設定します。

タグは ViewFramer 内で作成したビューを検索する際のキーワードで、何も指定しなくても構いません。

ビューの名前を設定し、「次へ」をクリックします。例では、「QuotationHeader」としています。

※ ビュー名は半角英数で入力してください。

The screenshot shows the 'View: 定義' (View Definition) screen. At the top, there are tabs: '基本設定' (Basic Settings, highlighted with a red box), 'リレーション設定' (Relationship Settings), '出力項目設定' (Output Item Settings), and '出力条件設定' (Output Condition Settings). Below the tabs, there's a section titled '基本設定' (Basic Settings). It has fields for 'ビュー名' (View Name) containing 'QuotationHeader' (highlighted with a red box) and 'タグ (Enterキーで確定)' (Tags (Press Enter to confirm)). At the bottom, there are buttons '戻る' (Back) and '元に戻す' (Reset), and a blue '次へ' (Next) button, which is highlighted with a red box.

### 5.2.3 ビュー定義: 詳細画面 – リレーション設定

リレーション設定では、ビューで用いる Salesforce オブジェクトを設定します。

主オブジェクトに「商談」を選択し、ショートネームを入力します。任意ですが、例では以下のように指定しています。

商談 = Opportunity 取引先 = Account

関連オブジェクトには「取引先」を指定します。設定は以下の画像をご参照ください。

設定をしたら「次へ」をクリックします。



#### <主オブジェクトと関連オブジェクトについて>

主オブジェクトは、起点となるオブジェクトを指定して下さい。(必ずしもボタンを配置するオブジェクトとは限りません。)

関連オブジェクトは、帳票上に使用する主オブジェクト以外のオブジェクトです。参照関係先のオブジェクトも指定する必要があります。今回は、[取引先名]を表示したいため、取引先オブジェクトを関連オブジェクトとしてリレーションを作成しています。

商談レコードに紐づく取引先レコードを取得するために、関連オブジェクトのリレーション設定では「[取引先 ID]=[商談.取引先 ID]」を指定しています。

商談 所有者 デモ管理PP [変更]  
商談名 デモ商談  
取引先名 トリニティ株式会社

活動予定 | 活動履歴 | 取引先責任者の役割 | パートナー | 関連 | 商品(Standard Price Book) | フォーム &添付ファイル | フォーズの履歴 | 見積

商談の詳細

編集 削除 コピー 共有 見積書PDF(Documentizer) 納品書 単票Excel(ViewFramer) 見積書(ViewFramer)

完了予定期 2016/12/24  
フォーズ Qualification  
確度(%) 10%  
期待収益 ¥80,000  
金額 ¥80,000

追加情報

リードソース  
次のステップ  
説明 : 見積条件1  
: 見積条件2  
: 見積条件3

システム情報

作成者 デモ管理PP, 2016/11/09 16:53 最終更新者 デモ管理PP, 2016/11/09 16:53

編集 削除 コピー 共有 見積書PDF(Documentizer) 納品書 単票Excel(ViewFramer) 見積書(ViewFramer)

## 5.2.4 ビュー定義: 詳細画面 – 出力項目設定

出力項目設定では、帳票に出力する項目を指定します。

「全項目を追加」ボタンで Salesforce オブジェクトのすべての項目を追加することができますが、一つずつ追加する場合は「+」ボタンをクリックして項目を増やし、「項目ビルダー」から内容を指定します。  
 「出力項目名」を OPROARTS Live のテンプレート上で定義されている CSV の項目名と同じにしておくと、後の手順で自動的にマッピングすることができます。

No	項目	ソート	グループ	出力項目名
1	Account 取引先名	項目ビルダー	昇順	AccountName
2	Opportunity 説明	項目ビルダー	昇順	Remarks
3	"Opportunity.商談ID"	項目ビルダー	昇順	OpportunityId

帳票には表示しないが、商談IDの項目を作成しておく。

テンプレートのCSVフィールド名と同じにする。

「列追加」ボタンをクリックし、オブジェクトと列を選択して追加します。



関数を使用することも可能です。



## 5.2.5 ビュー定義: 詳細画面 – 出力条件

レコードの抽出条件を設定できる画面です。

商談に条件を追加します。以下のように設定をしてください。

パラメータ名は任意ですが、今回は「ID」としてください。

ビュー：定義

基本設定 リレーション設定 出力項目設定 **出力条件設定**

出力条件設定

Limitを超えるデータがある場合は無視せずにエラーにする。

No	項目名	演算子	条件値
1	商談 ID	等しい(=)	パラメーター名 ID

2 Account Limit 未設定の場合は200,000が設定されます.

No	項目名	演算子	条件値

すべての設定が完了したら「保存」ボタンをクリックします。

保存

一覧に戻る 戻る 元に戻す

## 5.3 明細ビューの定義

### 5.3.1 ビュー定義: 詳細画面 – 基本設定

明細用のビューを作成します。明細ビューでは、[商談商品]オブジェクトの定義を行います。

ビューの名前を設定し、「次へ」をクリックします。

ビュー：定義

基本設定 リレーション設定 出力項目設定 出力条件設定

基本設定

ビュー名 QuotationLineItem

タグ (Enterキーで確定)

戻る 元に戻す 次へ 保存



### 5.3.2 ビュー定義: 詳細画面 – リレーション設定

主オブジェクトに「商談商品」を選択し、ショートネームを入力します。任意の名前ですが、例では以下のように設定しています。

商談商品 = OpportunityLineItem 商品 = Product

関連オブジェクトに「商品」を指定します。設定は以下の画像をご参照ください。設定をしたら「次へ」をクリックします。

ビュー：定義

基本設定 リレーション設定 出力項目設定 出力条件設定

リレーション設定

主オブジェクト 商談商品 OpportunityLineItem

No 関連オブジェクト

1 商品 Product

No	項目名	演算子	オブジェクト	項目名
1	商品 ID	等しい(=)	0-商談商品	商品 ID

戻る 元に戻す 次へ 保存



<主オブジェクトと関連オブジェクトについて>

ヘッダービューの時と同様に、参照項目先のオブジェクトとリレーションを作成します。

前頁のリレーション設定では、「[商品.商品 ID]=[商談商品.商品 ID]」を指定しています。

The screenshot shows the 'OpportunityLineItem' detail view. At the top, it displays the opportunity name 'デモ商談のサンプル商品1'. Below that, there's a table with columns like '商談' (Opportunity), '商品' (Product), '商品コード' (Product Code), 'リスト価格' (List Price), '販売価格' (Sales Price), '数量' (Quantity), '作成者' (Creator), and '明細説明' (Detail Description). A red box highlights the '商品' column, which contains 'サンプル商品1'. An orange callout box points to this cell with the text: '商品名は[商品]オブジェクトにあるため、[商品]へのリレーションを設定する。' (The product name is in the [Product] object, so set the relation to [Product]).

### 5.3.3 ビュー定義: 詳細画面 – 出力項目設定

ヘッダービューと同様に、帳票に出力する項目を指定します。

「出力項目名」を OPROARTS Live のテンプレート上で定義されている CSV の項目名と同じにしておくと、後の手順で自動的にマッピングすることができます。

The screenshot shows the 'Output Item Definition' screen under the 'View Definition' tab. It has tabs for 'Basic Settings', 'Relationship Settings', 'Output Item Definition' (which is selected), and 'Output Condition Settings'. The main area is titled 'Output Item Definition' and shows a table for defining output items. The table has columns: 'No.', '項目' (Item), 'ソート' (Sort), 'グループ' (Group), and '出力項目名' (Output Item Name). There are two rows: Row 1 has '項目' as 'Product.商品名' and '出力項目名' as 'ProductName'; Row 2 has '項目' as '"OpportunityLineItem.商談 ID"' and '出力項目名' as 'OpportunityId'. A red box highlights the '項目' column of Row 2. An orange callout box points to this cell with the text: '帳票には表示しないが、商談IDの項目を作成しておく。' (The report does not display this, but create a field for the Opportunity ID).

### 5.3.4 ビュー定義: 詳細画面 – 出力条件

レコードの抽出条件を設定する画面です。

ヘッダービューと同じように、「商談 ID」が「ID」と「等しい(=)」を指定し、保存します。

ビュー：定義

基本設定 リレーション設定 出力項目設定 **出力条件設定**

出力条件設定

Limitを超えるデータがある場合は無視せずにエラーにする。

No 取得元

1 OpportunityLineItem Limit 未設定の場合は200,000が設定されます。

No	項目名	演算子	条件値
1	商談 ID	等しい(=)	パラメーター ID

2 Product Limit 未設定の場合は200,000が設定されます。

No	項目名	演算子	条件値

すべての設定が完了したら「保存」ボタンをクリックします。

保存

一覧に戻る 戻る 元に戻す

# 6. マッピング定義

各ビューを一つのデータの固まりとしてまとめ、帳票テンプレートと紐づける「マッピング」の定義を行います。

## 6.1 マッピングの作成

最初に、「マッピング」タブを開いて「新規」ボタンをクリックします。



## 6.2 マッピング管理: 詳細画面

マッピング名とタイプを指定します。タイプは「ヘッダー明細型」を選択してください。

主データには、ヘッダービューを指定します。

The screenshot shows the 'Mapping: Definition' screen. It includes fields for 'Mapping Name' (Simple\_Mapping), 'Tag' (未入力), 'Type' (Header-Detail), and 'Edit View Permission' (checked). The 'Main Data' section is highlighted with a red box, showing 'Header' selected. A tooltip says: 'The name of the main data is specified. English and Japanese can be used.' The 'View' dropdown shows 'QuotationHeader' selected. A callout points to this selection with the text: 'Select the header view you created in the header view and click the "Get" button.' Below this, a table lists items: AccountName, Remarks, and OpportunityId. The 'Detail Data' section at the bottom is also shown.

明細データも、主データと同様に設定を行います。

設定ができたら、「次へ」をクリックしてください。

明細データの名前をつけてます。英数  
日本語が使用できます。

明細ビューの項目で作成したビュー  
を選択し、「取得」ボタンをク  
リックしてください。

主データとの結合

OpportunityId

戻る 元に戻す 次へ

## 6.3 マッピング管理: 出力設定画面

[出力確認]タブの「データ表示」で取得データの確認を行えます。

問題がなければ、[Documentizer]タブをクリックします。

マッピング : 定義 (Simple\_Mapping) : 出力設定

出力確認 Documentizer D3Worker CSV

出力情報確認

添付csvファイル 文字コード UTF-8

ファイル リクエストパラメーター名  
ファイルを選択 選択されていません

パラメーター ID

データ表示 出力バージョン Ver.3

ヘッダー

明細

出力条件にパラメータを指定している場合、直接値を入力します。

一覧に戻る 戻る 元に戻す 保存 配備



### Point

データ表示の際に、出力バージョン(※)の指定が可能です。

パラメーター

ID

データ表示 出力バージョン Ver.3

ヘッダー

Ver.2  
Ver.3



※出力バージョン切り替えの詳細については、以下ページをご参照ください。

[ViewFramer 出力バージョン切り替え方法 \(Salesforce\)](#)

### 注意

ここで指定した出力バージョンが、後に Salesforce 組織に設置する帳票出力ボタンの挙動に影響することはありません。

帳票テンプレートとのマッピングを行います。以下 3 つの設定を行います。

- ① テンプレートを選択
- ② データにビュー定義を指定
- ③ テンプレートの CSV フィールドとビュー定義のデータフィールドをマッピング  
(左側「データ」(=テンプレートのフィールド名)と右側「データフィールド」(=ビューの出力項目)を結びつける)

マッピング：定義：出力設定

出力確認 Documentizer D3Worker CSV

Documentizer

□ プロパティ

データ ヘッダー

出力ファイル名

Live 側の帳票テンプレートを指定します。

□ テンプレート [td1]

「td1」には、[マッピング管理：詳細画面]の主データを選択します。

データ ヘッダー

No	データ	データフィールド	画像
1	AccountName	AccountName	
2	Remarks	Remarks	

自動マッピング

「自動マッピング」でテンプレートと簡単にマッピングができます。

「td2」には明細データを指定します。

マッピングが完了したら、「配備」をクリックしてください。

□ td2

データ 明細

No	データ	データフィールド	画像
1	ProductName	ProductName	

自動マッピング

一覧に戻る 戻る 元に戻す 保存 配備

# 7. 出力アクションの作成

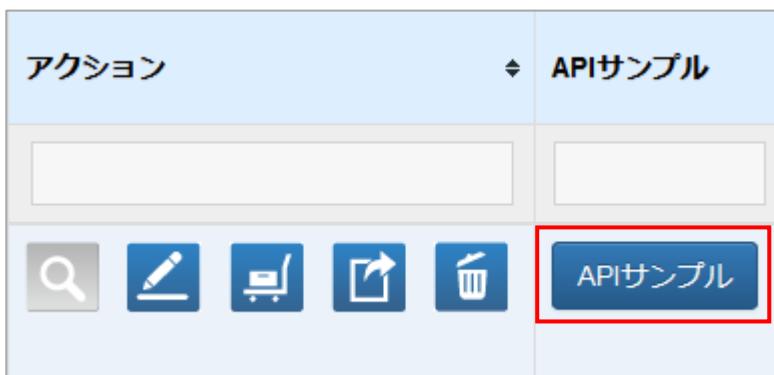
Salesforce のレコード画面から帳票を出力するアクションを作成します。

Salesforce のレコード画面から ViewFramer で帳票出力をするためには、出力をリクエストするアクションを Salesforce 上に作成する必要があります。

ここでは、1. 詳細ページに出力アクションを配置する場合と、2. リストビューに出力アクションを配置する場合を説明します。

## 7.1 詳細ページに出力アクションを配置する

1. ViewFramer のマッピング一覧画面で、呼び出したいマッピングの「API サンプル」欄にある[API サンプル]ボタンをクリックします。

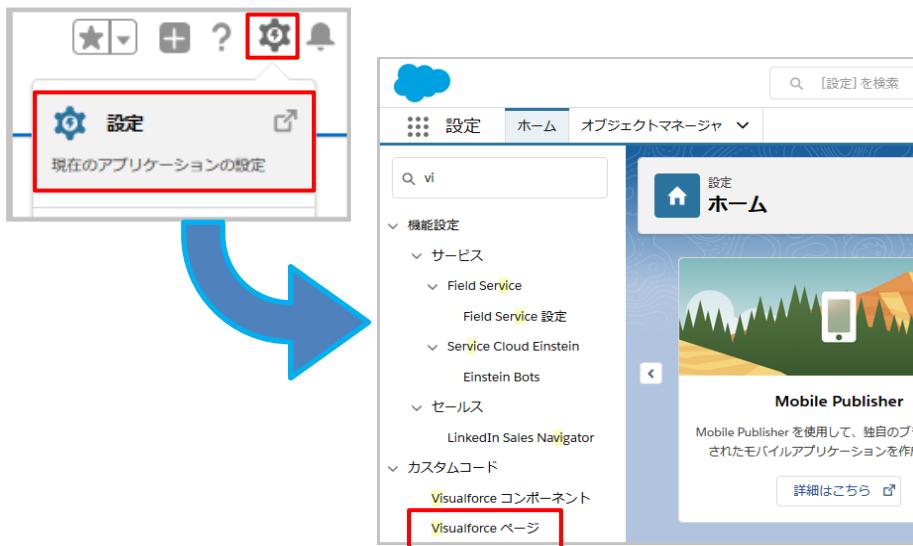


2. サービスは「Documentizer」、形式は「PDF」を選択し、[Visualforce ページ]ボタンをクリックします。

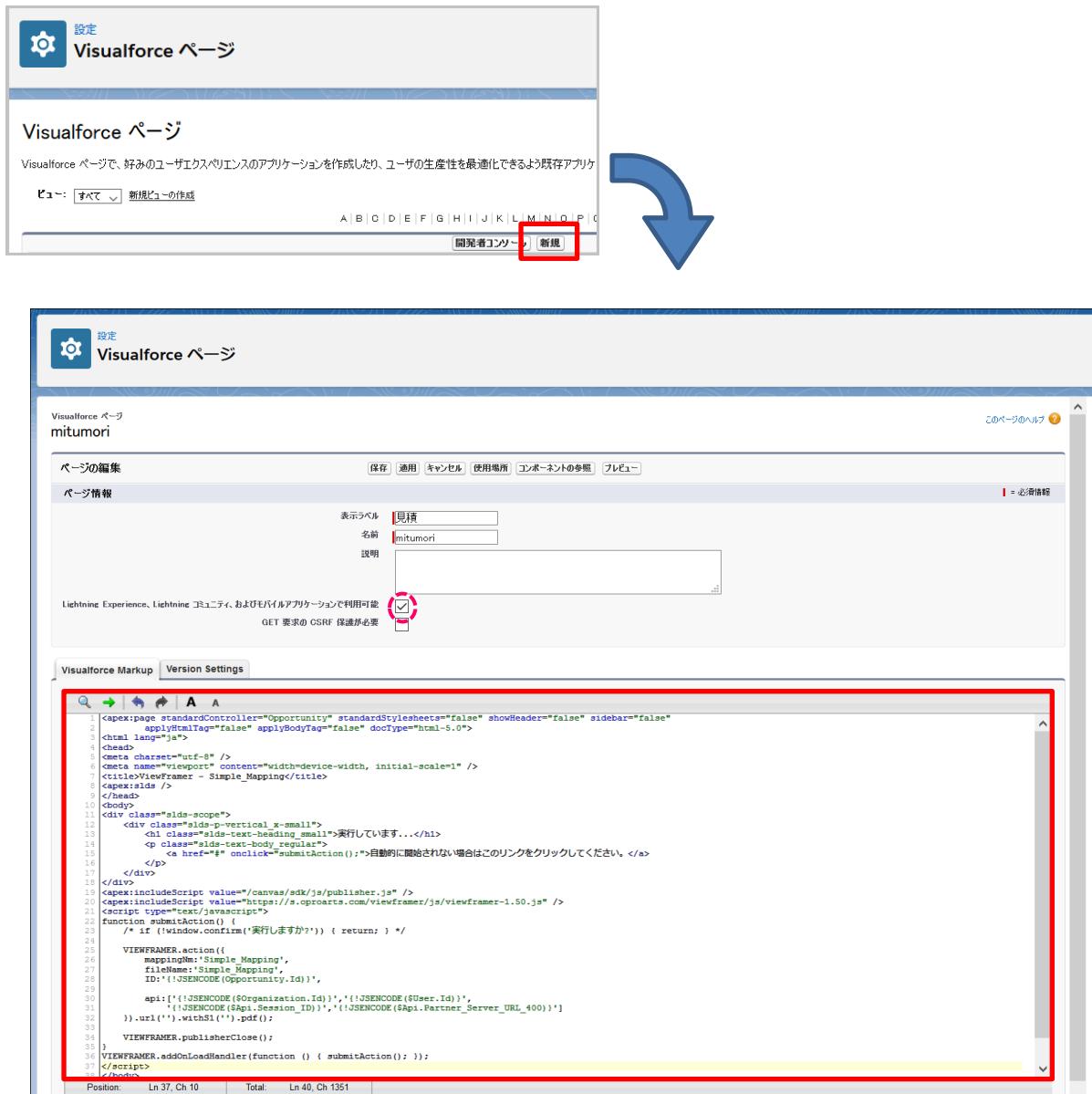


クリックすると、API サンプルのテキストファイルがダウンロードされます。

3. ダウンロードしたテキストファイルを開き、内容をコピーします。
4. 設定>カスタムコード>Visualforce ページを選択します。



5. [新規]ボタンをクリックし、下記のように設定して[保存]ボタンをクリックします。



## 表示ラベル(例)

見積

## 名前(例)

mitumori

## 「Lightning Experience～」

チェックを入れる

內容

## 2 でコピーした内容

## Point

2でコピーした内容の

「<apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.\*\*.js" />」の箇所について

- デフォルトでは、2020年10月26日以降の出力バージョン(v3)で帳票出力されます。  
1.\*\* の部分が、1.60以上のバージョンになっていることを確認してください。  
例: <apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.60.js" />
- 2020年10月25日以前の出力バージョン(v2)で帳票出力をしたい場合は  
「<apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.50.js" />」に書き換えてからVisualforceページを保存してください。

出力バージョン(v2、v3)の違いは以下ページに記載の通りです。

[ViewFramer 出力バージョン切り替え方法（Salesforce）](#)

## Point

ボタンを設置する組織で使用するOPROARTS Connectorの種類に合わせて、

「VIEWFRAMER.action({...}以下に

以下の記述を追記してください。

- soarize OPROARTS Connectorの場合

nsPrefix:"appsf",

- docutize OPROARTS Connectorの場合

nsPrefix:"docutize",

- OPROARTS Connector ver2.0 以降（※）

nsPrefix:"oproarts1",

- OPROARTS Connector ver1.34 以前（※）

上記のいずれも指定していない状態にします。

※OPROARTS Connectorのバージョンは、Salesforceの「設定」>「インストール済みパッケージ」画面にてご確認ください。

以下、設定例です。

```
VIEWFRAMER.action({  
  
    mappingNm:'SampleMappingName',  
  
    fileName:'SampleFileName',  
  
    nsPrefix:"oproarts1",
```

6. アクションを設置するオブジェクトを選択して、設定の[オブジェクトを編集]をクリックします。



7. [ボタン、リンク、およびアクション]を選択して、[新規アクション]をクリックします。



8. 下記のように設定して[保存]ボタンをクリックします。

商談 アクション  
新規アクション

アクション情報を入力

オブジェクト名	商談 <a href="#">i</a>	保存	キャンセル
アクション種別	カスタム Visualforce <a href="#">i</a>		
Visualforce ページ	見積 [mitumori] <a href="#">i</a>		
高さ	250 ピクセル <a href="#">i</a>		
標準の表示ラベル種別	--なし-- <a href="#">i</a>		
表示ラベル			
名前			
説明			
アイコン		<a href="#">アイコン変更</a>	
保存 キャンセル			

#### アクション種別

カスタム Visualforce を指定

#### Visualforce ページ

4 で作成した Visualforce ページ を指定

#### 高さ

変更なし

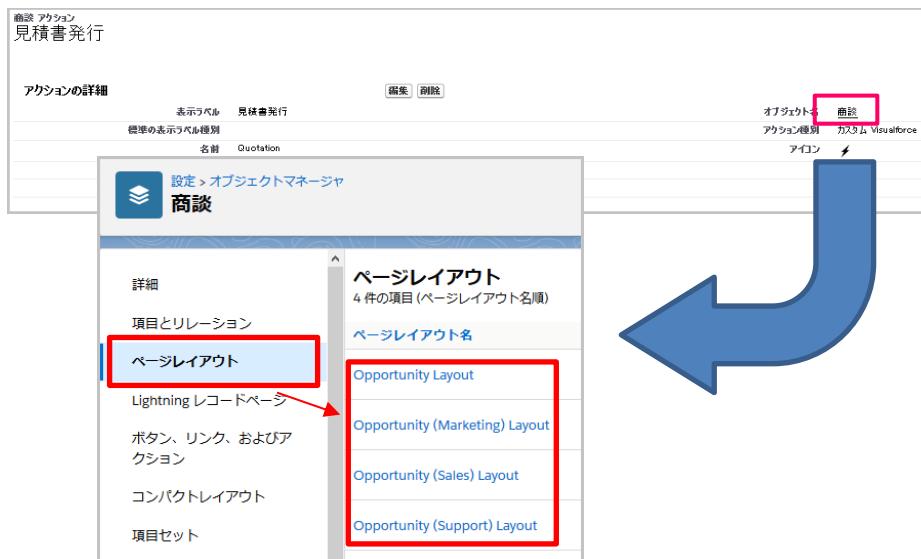
#### 表示ラベル(例)

見積書発行

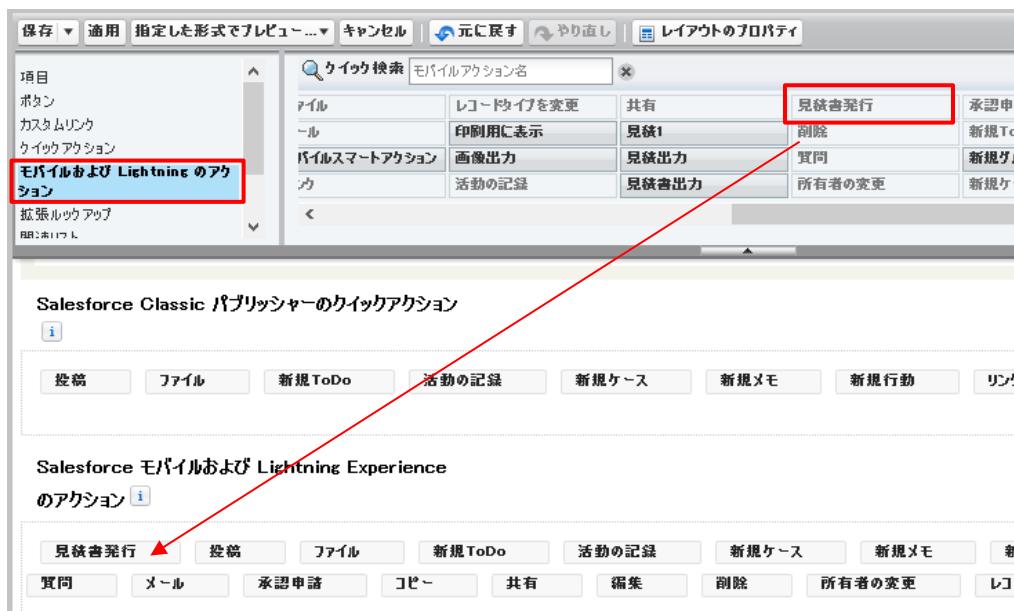
#### 名前(例)

Quotation

9. 設定 > オブジェクトマネージャ > 商談画面に戻り、[ページレイアウト]をクリックし、ボタンを表示させたいページレイアウトの[編集]リンクをクリックします。



10. レイアウト編集画面の「モバイルおよび Lightning のアクション」メニューをクリックし、7 で作成したボタンを「Salesforce モバイルおよび Lightning Experience」セクションにドラッグ & ドロップします。



11. [保存]ボタンをクリックしてレイアウトを保存します。



12. 商談詳細ページにアクションが表示されていることを確認します。



## 7.2 リストビューに出力アクションを配置する

- ViewFramerでリストビューから帳票出力する場合、リクエストパラメータのID部分に複数のオブジェクトレコードIDが入ります。そのため、ビューの出力条件設定が詳細ページ用のものと異なります。  
よって、リストビュー用のヘッダービュー、明細ビューを作成する必要があります。
- リストビュー用のヘッダービューを作成します。  
基本設定で詳細ページ用ヘッダービューと異なるビューノ名を付けたら、その他のリレーション設定、出力項目設定については詳細ページ用のヘッダービューと全く同様に設定します。  
出力条件設定にて、詳細ページ用のヘッダービューでは「等しい(=)」であった部分をリストビュー用のヘッダービューでは「いずれかと等しい(IN)」に指定します。

### 出力条件設定

Limitを超えるデータがある場合は無視せずにエラーにする。

No	取得元
1	Opportunity

Limit 未設定の場合は200,000が設定されます。

No	項目名	演算子	条件値
1	商談 ID	いずれかと等しい(IN)	パラメーター名 ID

- ヘッダービューと同様、明細ビューもリストビュー用のものを作成します。

### 出力条件設定

Limitを超えるデータがある場合は無視せずにエラーにする。

No	取得元
1	OpportunityLineItem

Limit 未設定の場合は200,000が設定されます。

No	項目名	演算子	条件値
1	商談 ID	いずれかと等しい(IN)	パラメーター ID

4. 詳細ページ用のマッピングと同様に、作成したリストビュー用のヘッダービューと明細ビューを用いてマッピングを新規作成します(マッピング作成セクション参照)。

以下の説明では、新たに作成したヘッダービューを「Simple\_Header\_View\_Listview」、新たに作成した明細ビューを「Simple\_Lineitem\_View\_Listview」、新たに作成したマッピングを「Simple\_Mapping\_Listview」としています。

マッピング : 定義

マッピング名	Simple_Mapping_Listview
タグ (Enterキーで確定)	
タイプ	ヘッダー明細型
ビューアの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>

□ 主データ ヘッダー

ビューア	Simple_Header_View_Listview
------	-----------------------------

No	項目	検索結果
1	AccountName	<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>
2	Remarks	<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>
3	OpportunityId	<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>

□ 明細データ 明細

ビューア	Simple_Lineitem_View_Listview
------	-------------------------------

最大件数  
1000

5. マッピングを作成したら、[こちらのページ](#)に添付されている「リストビュー用 Visualforce ページサンプル.txt」をダウンロードし、同じページ内の「サンプル Visualforce ページの変更点」を参考に内容を書き換えます。

(例)

```

<apex:page standardController="Opportunity" standardStylesheets="false" showHeader="false" sidebar="false"
    applyHtmlTag="false" applyBodyTag="true" docType="html-5.0" recordSetVar="displayed">
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="utf-8" />
<meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1" />
<title>ViewFramer list button</title>
<apex:slds />
</head>
<body>
<div class="slds-scope">
    <div class="slds-p-vertical_x-small">
        <h1 class="slds-text-heading_small">実行しています...</h1>
        <p class="slds-text-body_regular">
            <a href="#" onclick="submitAction();">自動的に開始されない場合はこのリンクをクリックしてください。</a>
        </p>
    </div>
</div>
<apex:variable var="noCheckbox" value="{$User.UITheme == 'Theme4t'}" />
<script type="text/javascript" src="/canvas/sdk/js/publisher.js"></script>
<script type="text/javascript" src="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.60.js"></script>
<script type="text/javascript">
function getSelectedIds() {
    var selectedIds = ['<apex:repeat value="{!!selected}" var="record">','{!!JSENCODE(record.Id)}'</apex:repeat>];
    selectedIds.shift();
    if (selectedIds.length !== 0) {
        return selectedIds;
    }
    var displayedIds = ['<apex:repeat value="{!!displayed}" var="record" rendered="noCheckbox">','{!!JSENCODE(record.Id)}'</apex:repeat>];
    displayedIds.shift();
    return displayedIds;
}
function submitAction() {
/* if (!window.confirm('実行しますか?')) { return; } */

    var ids = getSelectedIds();
    if (ids.length === 0) {
        window.alert('レコードを選択してください。');
        window.history.back();
        return;
    }

    VIEWFRAMER.action({
        mappingNm:'Simple Mapping Listview',
        fileName: '見積リスト',
        ID:ids,
        api:['{!JSENCODE($Organization.Id)}','{!!JSENCODE($Api.Session_ID)}','{!!JSENCODE($Api.Session_ID)}'],
        url('').withS1('').pdf();
    });
}

```

アクションを設置するオブジェクトの API 参照名です

リストビューで選択した複数のレコード ID が入った値です  
ここに入っているレコード ID の商談オブジェクトについて、帳票が出力されます

### Point

上記内容の

「<apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.\*\*.js" />」の箇所について

- デフォルトでは、2020年10月26日以降の出力バージョン(v3)で帳票出力されます。  
1.\*\* の部分が、1.60以上になっていることを確認してください。  
例: <apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.60.js" />
- 2020年10月25日以前の出力バージョン(v2)で帳票出力をしたい場合は  
「<apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.50.js" />」に書き換えてから Visualforce ページを保存してください。

出力バージョン(v2, v3)の違いは以下ページに記載の通りです。

[ViewFramer 出力バージョン切り替え方法 \(Salesforce\)](#)

**Point**

ボタンを設置する組織で使用する OPROARTS Connector の種類に合わせて、  
「VIEWFRAMER\_ZIP.action({...}」以下に  
以下の記述を追記してください。

■soarize OPROARTS Connector の場合

nsPrefix:"appsf",

■docutize OPROARTS Connector の場合

nsPrefix:"docutize",

■OPROARTS Connector ver2.0 以降 (※)

nsPrefix:"oproarts1",

■OPROARTS Connector ver1.34 以前 (※)

上記のいずれも指定していない状態にします。

※OPROARTS Connector のバージョンは、Salesforce の「設定」>「インストール済みパッケージ」画面にてご確認ください。

以下、設定例です。

```
VIEWFRAMER_ZIP.action({  
  
    mappingNm:'SampleMappingName',  
  
    fileName:'SampleFileName',  
  
    nsPrefix:"oproarts1",
```

6. 2で書き換えたファイルの内容を用いて詳細ページの出力アクション 2~6 の手順を行い、「カスタムボタンまたはカスタムリンク」の編集画面へアクセスし、下記のように設定して[保存]ボタンをクリックします。

商談のカスタムボタンまたはカスタムリンクの編集  
見積書一括発行

カスタムボタンまたはカスタムリンクの編集		保存	適用	プレビュー	キャンセル
表示ラベル	<input type="text" value="見積書一括発行"/>				
名前	<input type="text" value="QuotationPackage"/> <a href="#">i</a>				
説明	<input type="text"/>				
表示の種類	<input type="radio"/> 詳細ページリンク サンプルを表示 <input type="radio"/> 詳細ページボタン サンプルを表示 <input checked="" type="radio"/> リストボタン サンプルを表示 <input checked="" type="checkbox"/> チェックボックスの表示(複数レコード選択用)				
動作	<input type="text" value="現在のウインドウにサイバー付きで表示"/> <a href="#">動作オプションの表示</a>				
内容のソース	<input type="text" value="Visualforce ページ"/> <a href="#">▼</a>				
コンテンツ <input type="text" value="見積書一括 [mitumori_all]"/> <a href="#">▼</a>					
<input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="プレビュー"/> <input type="button" value="キャンセル"/>					

### 表示ラベル(例)

見積書一括発行

### 名前

QuotationPackage

### 表示の種類

リストボタン を指定

チェックボックスの表示(複数レコード選択用) にチェック

### 動作

現在のウインドウにサイバー付きで表示 を指定

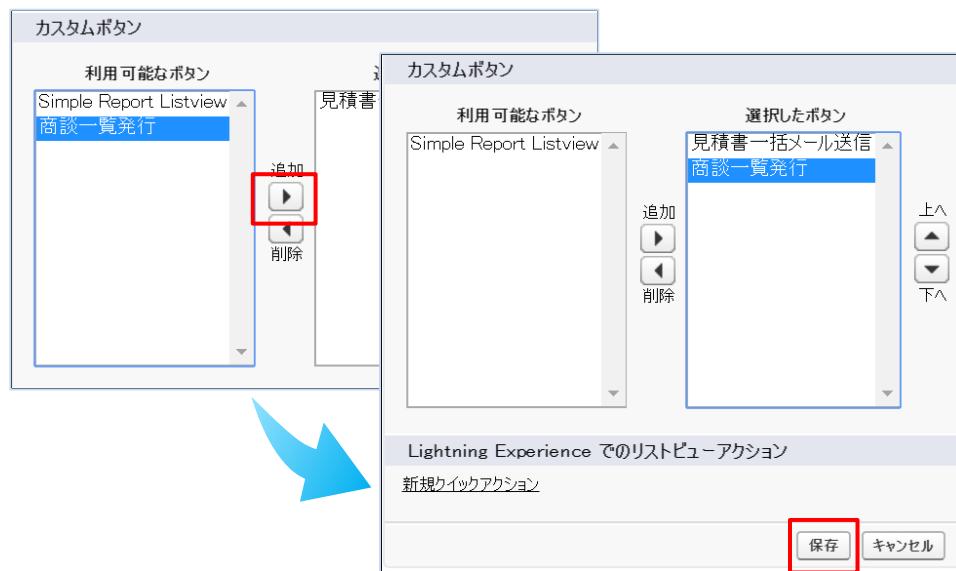
### 内容

コンテンツ→作成した Visualforce ページを指定

7. 設定> オブジェクトマネージャ> 商談画面の[Salesforce Classic の検索レイアウト]をクリックし、リストビューの[編集]リンクをクリックします。  
※ [Salesforce Classic の検索レイアウト]メニューがない場合、[検索レイアウト]メニュー内のリストビューを編集します。



8. 6で作成したボタンを選択して[追加]ボタンをクリックし、保存します。



## 9. リストビューページにアクションが表示されていることを確認します。

※「すべての商談」を選択してください。

すべての商談					
38 個の項目。並び替え基準: 商談名・検索条件: すべての商談・数秒前 に更新されました					
	商談名 ↑	取引先名	金額	完了予定日	フェーズ
1	Burlington Textiles Weaving Plant Generator	Burlington Textiles Corp of America	¥ 235,000	2018/02/23	Closed Won
2	Dickenson Mobile Generators	Dickenson plc	¥ 15,000	2018/02/02	Qualification
3	Edge Emergency Generator	Edge Communications	¥ 75,000	2018/04/19	Closed Won
4	Edge Emergency Generator	Edge Communications	¥ 35,000	2018/04/25	Id. Decision Makers
5	Edge Installation	Edge Communications	¥ 50,000	2018/02/08	Closed Won

### ※補足

リストビューから帳票出力した場合、詳細ページから出力できる PDF ファイルが画面に表示されているレコードすべてについて生成され、1 つの PDF ファイルに結合されて出力されます。

また、生成された複数の PDF ファイルを結合せずに別々の PDF ファイルとしてアーカイブファイルにまとめたい場合は [こちらのページ](#) に記載された手順の通りに Visualforce ページを変更します。

```

</div>
</div>
<apex:variable var="noCheckbox" value="{$User.UITheme == 'Theme4t'}" />
<script type="text/javascript" src="/canvas/sdk/js/publisher.js"></script>
<script type="text/javascript" src="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-zip-1.60.js"></script>
<script type="text/javascript">
function getSelectedIds() {
    var selectedIds = ['<apex:repeat
        selectedIds.shift();
        if (selectedIds.length !== 0) {
            return selectedIds;
        }
        var displayedIds = ['<apex:repeat value="!displayed" var="record" rendered="noCheckbox", {!JSENCODE(record.Id)}'</apex:repeat>;
        displayedIds.shift();
        return displayedIds;
    }
    function submitAction() {
        /* if (!window.confirm('実行しますか?')) { return; } */

        var ids = getSelectedIds();
        if (ids.length === 0) {
            window.alert('レコードを選択してください。');
            window.history.back();
            return;
        }

        VIEWFRAMER_ZIP.action({
            mappingNm:'Simple_Mapping_Listview',
            fileName:'見積リスト',
            ID:ids,
            zipTarget:'ID',
            api:[{!JSENCODE($),
                   {!JSENCODE($,
            }).url('').withS1('');
            /* ポップアップウィンドウの出力が完了したら前のページに戻る */
            window.addEventListener('message', function (event) {
                if (event.origin === 'https://vfrest.ap.oproarts.com') {
                    window.history.back();
                }
            }, false);

            VIEWFRAMER_ZIP.publisherClose();
        }
        VIEWFRAMER_ZIP.addOnLoadHandler(function () { submitAction(); });
</script>
</body>

```

変更前は<apex:includeScript  
value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.\*\*.js" />

zipTarget:'\*\*',」を追加する  
※\*\*には、出力条件に指定しているパラメータ名を入れる

## Point

上記内容の

「<apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-zip-1.\*\*.js" />」の箇所について

- デフォルトでは、2020年10月26日以降の出力バージョン(v3)で帳票出力されます。  
1.\*\* の部分が、1.60以上のバージョンになっていることを確認してください。  
例: <apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-zip-1.60.js" />
- 2020年10月25日以前の出力バージョン(v2)で帳票出力をしたい場合は  
「<apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-zip-1.50.js" />」に書き換えてからVisualforceページを保存してください。

出力バージョン(v2、v3)の違いは以下ページに記載の通りです。

[ViewFramer 出力バージョン切り替え方法 \(Salesforce\)](#)

## Point

ボタンを設置する組織で使用するOPROARTS Connectorの種類に合わせて、

「VIEWFRAMER\_ZIP.action({...}」以下に

以下の記述を追記してください。

■soarize OPROARTS Connectorの場合

nsPrefix:"appsf",

■docutize OPROARTS Connectorの場合

nsPrefix:"docutize",

■OPROARTS Connector ver2.0 以後 (※)

nsPrefix:"oproarts1",

■OPROARTS Connector ver1.34 以前 (※)

上記のいずれも指定していない状態にします。

※OPROARTS Connectorのバージョンは、Salesforceの「設定」>「インストール済みパッケージ」画面にてご確認ください。

以下、設定例です。

```
VIEWFRAMER_ZIP.action({  
  
    mappingNm:'SampleMappingName',  
  
    fileName:'SampleFileName',  
  
    nsPrefix:"oproarts1",
```



**ViewFramer**  
**ユーザーガイド**  
**Salesforce ver.**  
**(PDF/ヘッダー明細)**